枕崎市「高血圧ゼロ」始動

パチンコ、コンビニ店に血圧計

パチンコ店の休憩室に置かれた血圧計

枕崎市は「高血圧ゼロの街」を目指し、市内のパチンコ店やコンビニ店などに血圧計約60台を設置した。今後はスーパーや居酒屋などにも広げ計100台まで増やす計画。市の担当者は「公共施設での設置は当たり前。若い人や普段健康への関心が低い人に、まずは自分の血圧を知ってもらいたい」と狙いを話す。

同市桜木町のパチンコ店「パワフルグラハン」に入ると、壁には「血圧計あります」と書かれたポスター。客の休憩室に血圧計が置かれていた。店長の駒水貴弘さん(36)は「年配の方を中心に利用されています。枕崎は脳卒中が多いと聞いたので、少しでも協力できれば」と話す。

市健康課によると、市の脳卒中による死亡率（2013～17年）は、全国平均を100とすると男性が157・8、女性が158・8で、いずれも県内19市の中で最も高い。

医療費全体に占める生活習慣病の割合が高くなっており、高血圧もその一つ。コントロールしなければ脳卒中や心筋梗塞などのリスクが高まり、人工透析が必要になるケースもある。市民の血圧を正常化することで生活習慣病の重症化を防ぎ、医療費の抑制につなげる狙いだ。

「健康に関心低い人 利用を」

取り組みを提案したのは、高血圧が専門の大石充・鹿児島大教授（心臓血管・高血圧内科学）。昨年4月、市側に「細かいことを言うとうまくいかない。まずは市民に血圧を知ってもらうことから始めましょう」と呼び掛け、プロジェクトの開始が決まった。

市は鹿児島大、枕崎市医師会と協力。3年計画で、今年度は「市民が測定を通じて自分の血圧を『知る』」、2020年度は「血圧が高い人はかかりつけ医で治療を受け、『下げる』」、最終年度の21年度には「下げた血圧を『上げない』」の3本柱で取り組む。

血圧計は、企業から無償貸与を受けて6月から設置を始めた。公共施設をはじめ、パチンコ店、コンビニ店のほか、携帯電話販売店、郵便局、居酒屋などにも置いている。電池式で、臨時職員が巡回してデータを収集する。現在は数値だけだが、将来的にはタブレット端末をつないで性別、年代、居住地区、職業を入力してもらい、集計することも検討している。

今後は、小中学生や高校生の健康診断で血圧測定を行うことで、保護者にも血圧への関心を持ってもらったり、特産品のカツオやかんきつ類を活用した減塩商品を開発したりすることも計画中だ。

市健康課の田中義文課長は「自分の血圧を正確に知っている人は少ない。まずは関心を持ってもらい、プロジェクトを健康な街づくりにつなげたい」と意気込む。

大石教授は「街全体で血圧を下げようという、全国の先駆けとなる取り組み。健康意識が高まることで、血圧以外の数値の改善も期待できる」と話している。